

「社会」をなりたたせる 内分泌学



講師

菊水健史 先生

麻布大学獣医学部
介在動物学研究室 教授

東京大学獣医学科卒（獣医学博士）



菊水健史先生は、社会コミュニケーション、母子間愛着行動に関して、イヌ、齧歯類、霊長類、ヒトなど幅広い動物種を用いたご研究をされています。動物の社会行動と遺伝子・内分泌との関わりについてのご研究は、Science, Natureなどの権威ある学術雑誌に掲載されています。今回は、社会行動にかかわる内分泌の役割についてご講演頂きます。ぜひご参加下さい。

日時

2020年 **2月28日（金）** 17:30 - 18:45

会場

研究所3号館 セミナールーム

参加費

無料（予約不要）

NCNP職員の方はどなたでもご参加頂けます

[菊水先生からのメッセージ]

内分泌は個体の恒常性を維持する重要な機能です。この内分泌は、個体の心身の状態を他者に伝えるシグナルの発信、相手の状態を知る認知の制御、それを介した行動を司り、個体内を超えて、個体間、集団内の行動様式に強い影響を与えます。今回は、社会行動にかかわる内分泌の役割についてお話しします。

お問い合わせ

国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 微細構造研究部

Tel: 042-346-2093 (内線: 5215) Email: m-nakamura@ncnp.go.jp (担当: 中村/桑島)